

候。於様子者高松齋可有御傳奏候。次關東御陣之儀、頓而可被出御馬之由候。拙子式も可致參陣候。旁遂拜顔可得御意候。此等之趣可然之様、御披露所仰候。恐惶謹言。

天正十八年
正月廿三日

長 頼 在判

片倉小十郎殿

村井又兵衛尉

(上書)
片倉小十郎殿

長 頼

正月廿六日。前田利長、伊達政宗に、その上洛を促す。

二〇一五

【伊達家文書】

連々承及候條、自是可令啓達刻御札拜見、相叶本懷候。殊御馬一疋栗毛被懸御意候。御懇切之儀難盡書中候。仍高松齋被仰含、被差越通一々承届、筑前守被申聞候。就其舊冬上洛砌、御存分之姿重々達上聞、御内證趣委曲及御報候。猶以北條爲御成敗、近日可被成御動座ニ相究候間、此節有御上洛、諸篇可被任御憤事專用存候。具

高松齋可被説口上候間不能細筆候。恐々謹言。

天正十八年
正月廿六日

利 長 在判

伊達左京大夫殿

御返報

(上書)
伊達左京大夫殿

羽柴孫四郎

御返報

利 長

(天正十七年十二月五日の條参照。)

二月二日。前田利家、伊達政宗に、下野に出馬して小田原征討の軍に従ふべきことを勸む。

二〇一六

【伊達家文書】

重而良學被指越候ニ付而、御懇簡具拜披、本懷之至存候。如承候敢前遠藤不入齋被指上、條々御存分之趣達上聞候。委曲先書ニ如申伸候。御逆鱗雖不淺候、淺野彈正少弼方令相談、多重御理申上候ニ付而、會津之儀御別條有間敷之旨、御内證之通不入齋へ懇ニ申渡及御報候シ。就其先日も如申入候、北條表裏之緩急曲事ニ被思食、則被

成御動座可有御成敗ニ候。東海道之御人數、駿河大納言家康卿爲御先手當月五日ニ被打立候。其跡押續御出勢ニ候。依之拙者も加州・能州・越中之人數召連、十日ニ先勢相立、我等者廿日ニ致出馬候。信州通上野へ可押入候。眞田并上杉方を先勢ニと被仰出、是又同道へ可相働候。淵底良學被聞届候。然上ハ此時候條、自會津口ニ至下野有御出馬、可被拙忠儀候。我等上野へ打入候者、其地へ物近候條、節々飛脚被相越、可被示合事專一候。猶於巨細者、口狀ニ申渡候間不能詳候。恐々謹言。

天正十八年
二月二日

羽 筑 利 家 在判

伊達左京大夫殿

參御返報

二月十日。前田安勝、越中新川郡岩崎立山寺及び蘆崎中宮寺の衆徒神主に、諸役を免除す。

【雄山神社文書】 越中

二〇一七

以上

態令啓候。仍而立山寺之儀、御寄進地ニ候間、衆徒神主一切諸役等之儀有間敷候。右分筑前守殿へも御理申候間、爲其一筆遺候。依如件。

(前田五郎兵衛)
五兵衛

天正十八年二月十日

安 勝 在判

立山寺衆徒中

二〇一八

以上

【蘆崎寺一山會文書】 越中
態令啓候。仍而姥堂之儀、御寄進之地ニ候間、衆徒神主一切諸役等之儀有間敷候。右分筑前守殿へも御理申候間、爲其一筆遺候。仍如件。

五兵衛

天正十八年二月十日

安 勝 在判

姥堂衆徒中

三月十三日。前田利家、信濃檜井の本陣原孫右衛門に、その加越能三州内にて商を営むとき諸